様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2016
課題番号：１５Ｋ１７３９２

研究課題名（和文）言文一致運動の中にみる明治・大正・昭和初期の古典教育論形成過程に関する実証的研究

研究課題名（英文）theory on classic education toward the vernacular movement in modern japan

研究代表者
菊野　雅之（Kikuno, Masayuki）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：９０５４９２１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：戦前の国語科教育において、古典教材はどのような位置付けにあったのかを教科書調査などを通じて明らかにしようとしました。研究の結果、明治３０年代が古典教材の位置付けが大きく変わり、書く際の文章モデルとしての機能を失っていったことが明らかとなりました。今後は、大正や昭和という時代において、その古典教材の位置がどのように変化していったのかを明らかにすることが必要となります。

研究成果の概要（英文）：In the pre-war Japanese-language education, I tried to clarify the position of classical teaching materials through textbook survey and others. As a result of the research, it became clear that in the Meiji 30s the position of classical teaching materials changed drastically, losing the function as a writing model at the time of writing.

研究分野：国語科教育学

キーワード：古典教育　近代　教育史　国語科教育　教科書　国民国家　保科孝一　落合直文

１．研究開始当初の背景

古典教育はなぜ必要なのか。これまで古典教育論は一定程度蓄積されてきた。しかし、これまでの議論は、明治から昭和にかけての古典教材の発生と形成の歴史的経緯を踏まえない観念的な議論に終始してきた。現代古典教育論への接続までを視野に入れた上での、近代における古典教材の形成の歴史について実証的に研究しているのは事実上申請者のみの状況にある。大正期の漢文教育についての研究や中学校教授要目に着目した制度史からの研究はあるものの具体的な教科書や同時代記事を史料として博捜した上での古典教育史研究はなされていない。

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領において「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が位置付けられた現在、古典教育論の確立・精錬は喫緊の課題だと考えるが、古典を学ぶことの根源的な理論の追求は傍らに置かれたまま、教育実践が積み重ねられている。申請者は古典教育を推進する立場にも、否定する立場にもいない。実証的な調査によって、公教育における学習対象の理論的な根拠を解き明かし、未来の国語科教育の理論を形成するための基盤を示そうとするものである。

２．研究の目的

文語文から言文一致体へ通用文の文体が変革していく中で、明治・大正・昭和初期における近代古典教育論の変革する様子を抽出・分析し、昭和初期の西尾実に至る現代古典教育論までの経緯を描き出すことが本研究の目的である。ただし、本研究は、あくまでも現在の児童・生徒たちが発する「なぜ古典を学ぶのか」という素朴な問いに対して、われわれが充分に応答することができない状況があることを公教育として問題だと捉えているところから始まっている。本研究は、これまで古典教育論が詳細な歴史的研究を踏まえないものであったことを問題視し、実証的歴史研究を踏まえた上で、現在の、そして未来の古典教育論を論じる土台を形成しようとする。

３．研究の方法

平成 27 年度には、大正期最大の国語科教育専門雑誌『国語教育』を分析し、さらにその知見を補完するために、同時代の教育雑誌『教育時論』も分析対象とする。平成 28 年度には、大正から昭和にかけ「現代文」教育を強く推進した文部官僚保科孝一の言説から、古典教育論を抽出し、文体観が大きく変化する中での古典教育の位置付けを明らかにしようとする。また、言文一致運動完成期の昭和初期において、児童生徒の言語生活を重視した西尾実の言説からも古典教育論を抽出する。これらを通じて、日本における文体意識の大きな変革によって同時並行的に起こったと想定される古典教育論の大きな変動の様子を具体的な史料を博捜することを通じて明らかにし、現代古典教育論との関連をも指摘しようとするものである。なお、年度に縛られることなく適宜＜併行研究＞を行うことにより、多様な視点を柔軟に取り込めるような体制を採っている。

４．研究成果

大正期の国語科教育専門雑誌である『国語教育』誌上における保科孝一の言説を網羅的に調査し（創刊の大正５年１月から大正１５年１２月にかけての期間内の記事）、古典教育に関する記事の抽出を完了した。その知見は近日学会報告・論文発表の形で報告する予定である。以降は、大正１６年１月から昭和１６年３月の終刊までの保科の言説を引き続き追う。

また、落合直文編『中等国語読本』の分析のための基本的史料である『中等国語読本編纂趣意書』の存在を明らかにし、その分析を通じて『中等国語読本』の編纂意図についても言及するに及んだ。また、落合の死後、森鴎外、萩野由之、与謝野鉄幹らが編集を引き継いだとされるが、鴎外の日記などの調査から鴎外自身がほとんど編集に関与していない可能性について言及した。これについては、引き続き調査を進めていきたい。

当時の文体の混乱、教材になりえる素材の不足のなかで、それらを統合し一つの読本の中に配置する作業に苦心した落合の様子が明らかになった。古文も一つの文体でしかなく、それらをどう配置するのかということに落合の関心はあり、古文の学習にどのような価値があるのかということを詳らかにすることには、それほどエネルギーは費やされていない。古文を文範として把握していた時期の雰囲気を残しつつも、後に保科孝一が国民性の陶冶という一言で古典教育を位置付けることとなる大正期の勢いにたどり着くこともなく、その過渡期に、落合の古典教材の把握は位置付けられるといえる。さらに落合読本の分析を進め、明治の教材観・文体観のありようを明らかにし、近代古典教育論の把握をさらに進めていく。

最終年度のＨ２８年度には、本研究の成果を博士論文「近代古典教育の成立と展開」として提出を行い、学位論文として認められた。本研究の成果を端的にまとめると、明治期における中等国語読本の形成過程の一端を明らかにしたことと、それぞれの読本への編者の文体（文範）意識を明らかにしつつ、当時における古典の教材性の在り方を明らかにしたことが挙げられる。また、教材研究と国文学研究の交差の実践、古典を読む機能としとの「他者性」の可能性の提示、国文学研究からも教材研究からも注目されてこなかった新たな読みの提示などに至ったことが挙げられよう。さらに、近代国語科教育史における未発掘史料の紹介とその解題を作成することができた。

普通文に対する文範性を根拠として古典教育が成立していた時期を古典教材観の形

成期前期、言文一致運動が完成し、古典から文範性が喪失していった時期を古典教材観後期と仮に呼ぶとするなら、明治３０年代までが前期、それ以降の明治・大正期が後期に当たるだろう。本研究第一部は前期から後期に移行しようとする過渡期に当たる落合読本を論じたところで稿を閉じた。後期に関する議論は残されたままである。後期は古典から文範性が喪失し、国民性の涵養といった意義が古典教育に付与されることとなるわけだが、文範性が喪失時代というくくりで言えば、後期の議論は現代にもつながっていく。

国語科教育のカリキュラムとしての「古典」の成立は昭和６年の中学校教授要目に求められる。本研究はそこへ至る大正・昭和初期の過程を叙述するまでには至っていない。本研究の今後の課題は、この後の時代における古典教育の展開を丹念に追うことである。これについては、次の研究課題としてすでに研究が始動している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計８件）

① 菊野雅之、近代古典教育の成立と展開、早稲田大学大学院教育学研究科学位論文（教育学）、査読有、2016、pp.1―143
② 菊野雅之、連載第６回　こうすれば面白い！古典の授業づくり　個性の発揮としての現代語訳／想像力の源泉としての古典―主体的・協働的な学習を通して―、教育科学国語教育、査読無、795 号、2016、pp.118―119
③ 菊野雅之、連載第５回　こうすれば面白い！古典の授業づくり　言語抵抗のない古典指導へ―視覚情報を援用する―、教育科学国語教育、査読無、794 号、2016、pp.118―119
④ 菊野雅之、連載第４回　こうすれば面白い！古典の授業づくり　学習者の問題意識にコミットする教材選択×協働学習で磨く、教育科学国語教育、査読無、793 号、2015、pp.118―119
⑤ 菊野雅之、連載　第３回　こうすれば面白い！古典の授業づくり　感性と情緒を育む帯単元と学習者の主体性を引き出す歌合、教育科学国語教育、査読無、792 号、2015、pp.118―119
⑥ 菊野雅之、連載　第２回　こうすれば面白い！古典の授業づくり　生徒の疑問を比べ読みで解消する、教育科学国語教育、査読無、791 号、2015、pp.118-119
⑦ 菊野雅之、連載　第１回　こうすれば面白い！古典の授業づくり　読書で学習者と古典をつなぐ、教育科学国語教育、査読無、791 号、2015、pp.118-119
⑧ 菊野雅之、落合直文『中等国語読本』の編集経緯に関する基礎的研究―二冊の編纂趣意書と補修者森鴎外・萩野由之―、語学文学、査読無、15 号、2015、pp.29―40

〔学会発表〕（計３件）

① 菊野雅之、Ｈ２７年度の講義のふりかえり―小国法・中国法・高国法・国語表現・国語科教育学特講・免許講習―、釧路国語教育学会、2016 年 3 月 13 日、北海道教育大学釧路キャンパス
② 菊野雅之、古典教育はどう展開されるべきか、釧路国語教育研究会、2015 年 7 月 4 日、北海道教育大学釧路キャンパス
③ 菊野雅之、落合直文『訂正中等国語読本』の編集経緯に関する基礎的研究、2015 年 4 月 18 日、北海道教育大釧路キャンパス

〔図書〕（計１件）

菊野雅之・玉井康之・北海道教育大学釧路校教師教育研究会、子どもの”総合的な能力”の育成と生きる力、2017、pp.122―125

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
菊野　雅之　（KIKUNO, MASAYUKI）
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：９０５４９２１３

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者

（　　）